

熊取町埋蔵文化財報告第12集

大久保B遺跡発掘調査概要・I

『熊取町駅前土地区画整備事業に伴う調査』

1990年3月

熊取町教育委員会

はしがき

熊取町西部の住吉川の河岸段丘から派生する氾濫原における文化財調査は、今まで実施されておらず、これまで数カ所の遺跡が文化財分布図によって知られているだけです。

熊取町教育委員会では、熊取駅前土地区画整備事業に伴い、大久保B遺跡の発掘調査成果をこの概要報告書にまとめ発刊いたしました。これらの遺跡は、熊取町の歴史を知るうえで大変重要であり、調査を積み重ねていくことによって新たな発見が得られることと思います。

本書はささやかではありますが、熊取の歴史と文化を明らかにする一助となり、埋蔵文化財に対するみなさん方のご理解をより深めていただくことに役立てば幸甚に存じます。

なお今回の調査に際し、全面的な協力を賜りました熊取町事業部駅前整備課並びに現地での調査及び本書の作成にあたって尽力いただきました方々に対し深く感謝の意を表します。

平成2年3月

熊取町教育委員会

教育長 山中長正

例　　言

1. 本書は熊取町及び熊取町教育委員会が、昭和63年度及び平成元年度に実施した駅前土地区画整備事業に伴う大久保B遺跡の調査概要報告書である。
2. 調査は、熊取町教育委員会発掘調査嘱託員井田匡を担当者として、大久保B遺跡88-1区の調査は昭和63年10月12日に着手し、同年11月14日終了した。
さらに、大久保B遺跡89年-1区の調査を平成元年5月26日に着手し、同年7月29日終了した。
なお、調査における事務及び連絡等と現場管理については、熊取町事業部駅前整備課がおこなった。
3. 調査の実施と整理にあたっては、久世公一、林正仁、井手口大作、池辺吉也、富村伊都子、高垣香織、高浜留美、辻本栄子、安福佳代、木村恵美子の諸氏の協力を受けた。
また、熊取町事業部駅前整備課・竹口文化財土木工業所・関西航測株式会社及び関係各位より多大な協力を得た。明記して感謝の意を表したい。
4. 本書中の標高は、東京湾平均海面を基準とし、方位は、地図以外は磁北を示すものとした。
5. 本書の執筆・編集は井田がおこなった。
6. 調査を実施する際に、遺構については検出した順に遺構の略称と番号を組み合わせて呼称することとした。
略称は溝をS D、柱穴をP i t、土壌をS K、不整形土壌をS X、流路をS Rと呼称し、その他の遺構については、特徴などで呼称することとしたが、本書での個々の遺構についての名称もこれに準じて表すこととする。
7. 本書では、遺物については挿図、図版ともに同一番号または同一記号で記載することとした。
8. 調査にあたっては、写真・実測図等の記録を作成するとともにカラースライドを作成した。広く利用されることを望む。

目 次

第1章 はじめに	1
第1節 遺跡の位置と環境	
第2節 既往の調査について	
第3節 既往の調査での出土遺物	
第2章 大久保B遺跡88年-1区の調査	8
第1節 調査に至る経過	
第2節 遺跡の概要	
第3節 大久保B遺跡88年-1区の検出遺構	
第4節 大久保B遺跡88年-1区の出土遺物	
第3章 大久保B遺跡89年-1区の調査	15
第1節 調査の概要	
第2節 大久保B遺跡89年-1区の検出遺構	
第3節 大久保B遺跡89年-1区の出土遺物	
第4章 まとめ	26

図 版 目 次

図版第一	大久保B遺跡88年-1区遺構検出状況
図版第二	大久保B遺跡88年-1区遺構検出状況 86-Aトレンチ出土遺物
図版第三	大久保B遺跡89年-1区空中写真I
図版第四	大久保B遺跡89年-1区空中写真II
図版第五	大久保B遺跡89年-1区遺構検出状況I
図版第六	大久保B遺跡89年-1区全景
図版第七	大久保B遺跡89年-1区遺構検出状況II
図版第八	大久保B遺跡89年-1区遺構検出状況III

図版第九 大久保B遺跡89年-1区遺構検出状況IV

86-Aトレンチ出土遺物

図版第十 出土遺物I

図版第十一 出土遺物II

図版第十二 出土遺物III

図版第十三 出土遺物IV

挿 図 目 次

第1図	熊取町の位置	1
第2図	調査トレンチの位置図	3
第3図	既往の調査での出土遺物	7
第4図	調査区位置図	8
第5図	大久保B遺跡88年-1区の調査地区割り図	9
第6図	大久保B遺跡88年-1区調査区平面図	10
第7図	大久保B遺跡88年-1区土層模式図	11
第8図	大久保B遺跡88年-1区出土遺物(1)	13
第9図	大久保B遺跡88年-1区出土遺物(2)	14
第10図	大久保B遺跡88年-1区出土遺物(3)	14
第11図	大久保B遺跡89年-1区調査地区割り図	15
第12図	大久保B遺跡89年-1区上層遺構平面図	17
第13図	大久保B遺跡89年-1区最終遺構平面図	19
第14図	大久保B遺跡89年-1区土層模式図	21
第15図	大久保B遺跡89年-1区出土遺物(1)	25
第16図	大久保B遺跡89年-1区出土遺物(2)	26

表 目 次

第1表 試掘調査及び既往の調査の結果

大久保B遺跡発掘調査概要・I

第1章 はじめに

第1節 遺跡の位置と環境

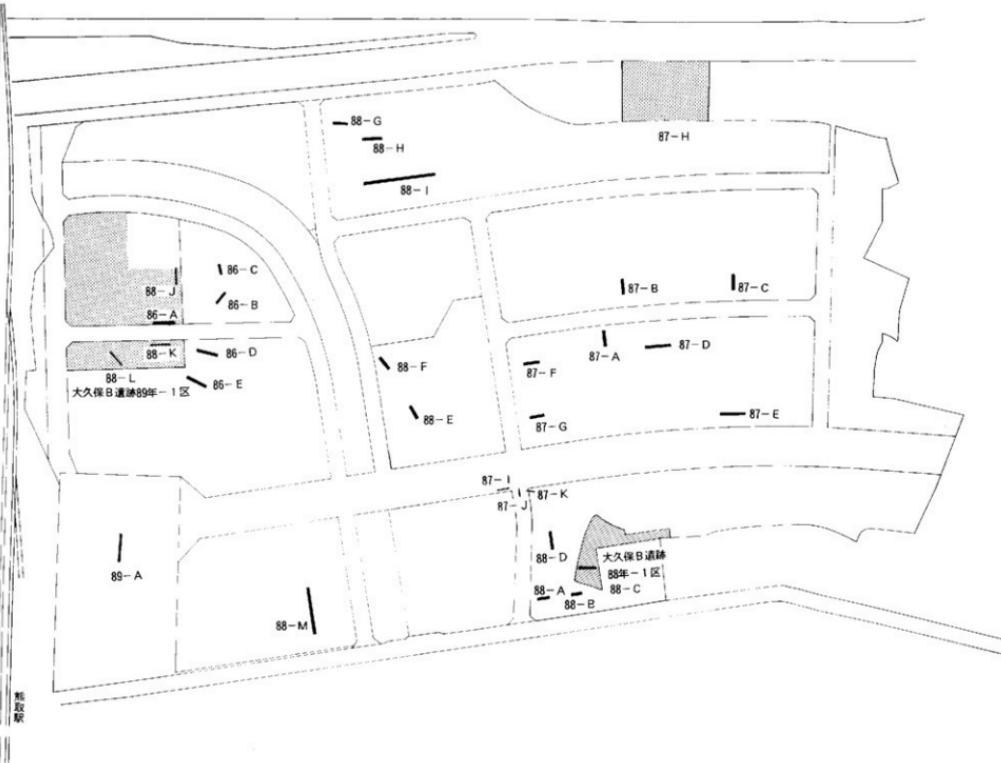
大久保B遺跡は、大阪府泉南郡熊取町大久保に所在し、JR阪和線熊取駅前周辺に位置している。付近の地形は埋積谷と低位段丘面と氾濫原で構成されており、標高は海拔18mから26mを測る。

大久保B遺跡では、弥生時代から近世にかけての遺物が散布しており、大阪府教育委員会が、昭和60年に発行した大阪府文化財分布図によれば、大久保B遺跡は散布地として遺跡の位置と範囲が記されている。遺跡の範囲は、北は外環状線、南は町道大久保停車場線、西はJR阪和線、東は町道向田長坂線間で、東西約400m、南北約250mの広がりを持つ。

大久保B遺跡の存在する住吉川流域には、他にも遺跡が多く存在しており、熊取町内では大浦中世墓地・東円寺跡・口無池遺跡・紺屋遺跡・大久保C遺跡・大久保D遺跡が存在し、更に下流の泉佐野市域では、山出遺跡・櫛波羅密寺・井原の里遺跡・湊遺跡などが存在するが、住吉川流域周辺では、新たに遺跡が発見される可能性は極めて高く、その位置と範囲の確定と性格の把握は今後の課題である。



第1図 熊取町の位置



第2図 大久保B遺跡調査トレンチ位置図

注 この地図上におけるトレンチの位置は概略であり、正確な位置ではありません。

第1表 試掘調査及び既往の調査の結果

調査地点の名称	調査の原因	調査結果・備考
OKB 86-A	公共事業 駅前区画整理事業	弥生土器及び遺構検出 出土遺物については第3図・図版第二、図版第十参照 大阪府教育委員会実施
OKB 86-B	公共事業 駅前区画整理事業	弥生土器及び溝状遺構検出
OKB 86-C	公共事業 駅前区画整理事業	弥生土器及び遺物包含層検出
OKB 86-D	公共事業 駅前区画整理事業	遺構・遺物なし
OKB 86-E	公共事業 駅前区画整理事業	遺構・遺物なし
OKB 87-A	公共事業 駅前区画整理事業	溝状遺構検出及び土師器要出土
OKB 87-B	公共事業 駅前区画整理事業	遺構・遺物なし
OKB 87-C	公共事業 駅前区画整理事業	遺物包含層検出
OKB 87-D	公共事業 駅前区画整理事業	遺構・遺物なし
OKB 87-E	公共事業 駅前区画整理事業	中世遺物包含層検出・瓦器出土
OKB 87-F	公共事業 駅前区画整理事業	遺構・遺物なし
OKB 87-G	公共事業 駅前区画整理事業	遺構・遺物なし
OKB 87-H	民間開発 ビル建築	遺物包含層確認・地山の直上で縄文土器と思われる破片が出土している。(第3図・図版第十参照)
OKB 87-I	公共事業 駅前区画整理事業	遺構・遺物なし
OKB 87-J	公共事業 駅前区画整理事業	遺構・遺物なし
OKB 87-K	公共事業 駅前区画整理事業	遺構・遺物なし
OKB 88-A	公共事業 駅前区画整理事業	遺構・遺物なし
OKB 88-B	公共事業 駅前区画整理事業	遺構・遺物なし
OKB 88-C	公共事業 駅前区画整理事業	遺物包含層検出 調査実施(大久保B遺跡88年-1区) 本文参照
OKB 88-D	公共事業 駅前区画整理事業	遺構・遺物なし
OKB 88-E	公共事業 駅前区画整理事業	遺構・遺物なし

調査地点の名称	調査の原因	調査結果・備考
OKB88-F	公共事業 駅前区画整理事業	遺構・遺物なし
OKB88-G	公共事業 駅前区画整理事業	遺構・遺物なし
OKB88-H	公共事業 駅前区画整理事業	遺構・遺物なし
OKB88-I	公共事業 駅前区画整理事業	遺構・遺物なし
OKB88-J	公共事業 駅前区画整理事業	遺構・遺物検出 調査実施(大久保B遺跡89年-1区) 本文参照
OKB88-K	公共事業 駅前区画整理事業	遺構・遺物検出 調査実施(大久保B遺跡89年-1区) 本文参照
OKB88-L	公共事業 駅前区画整理事業	遺構包含層検出 調査実施(大久保B遺跡89年-1区) 本文参照
OKB88-M	公共事業 駅前区画整理事業	遺構・遺物なし
OKB89-A	公共事業 駅前区画整理事業	溝状遺構検出・遺物包含層確認 盛七により保護

第2節 既往の調査

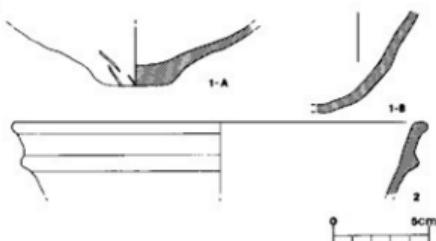
既往の調査としては、過去2年間に、民間開発及び公共事業の実施に伴い、数カ所の試掘調査を大阪府教育委員会文化財保護課と熊取町教育委員会で実施しており、弥生土器の甕や高杯の破片や土師器の破片などの遺物や溝などの遺構が確認されている。しかし、それらの調査はきわめて断片的なものであり、調査面積や期間にも制約があったので資料的にはそれほどの蓄積を持たない。

調査トレンチの位置については第2図に、また、調査結果については表1にまとめたので参考願いたい。

第3節 既往の調査での出土遺物

既往の調査ではいくつかの遺物が、出土もしくは地表面より採取されている。

1-Aは86-Aトレンチから出土した。弥生土器の壺の底部である。底部に刷毛目らしきものがみうけられる。



第3図 既往の調査での出土遺物

胎土には2mm程度の石英粒が含まれておりやや軟質である。1-Aは高杯の杯部の破片と思われる。86-Aトレンチではトレンチ内を南北に横切る溝状の遺構から、弥生土器の破片が多量に出土しているが、いずれも破片で摩滅が進んでおり、どのような器種なのか判別できないものが大半であるが、この2点のみが器種を判別できた。なお図版第九は86-Aトレンチ出土の弥生土器の一部である。

2.はビルの建築に伴い調査を実施した際に、地山直上で出土した。破片であること。摩滅が進んでいることから断定はさけるが、縄文土器で突帯文の鉢の口縁部ではないかと考えられる。また、図版第十は昭和58年に実施された分布調査によって表面採取された近世の土メンコである。



第4図 調査区位置図

第2章 大久保B遺跡 88年-1区の調査

第1節 調査に至る経過

熊取町大字大久保所在の熊取駅前周辺において、熊取町は区画整理事業を実施しているが、熊取町及び熊取町教育委員会では区画整理事業に際して、工事を実施するにあたり、当該地が周知の遺跡であることから、周辺での文化財の存否について確認する必要があると判断した。これについて昭和63年1月29日付で熊取町事業部駅前整備課より、文化庁長官宛の発掘通知が熊取町教育委員会に提出されたので、熊取町教育委員会は熊取町事業部駅前整備課と協議を重ね、遺跡の重要性に鑑み、昭和63年度内に土木工事を実施する区画について遺跡の存否確認の為に試掘調査を実施することとした。

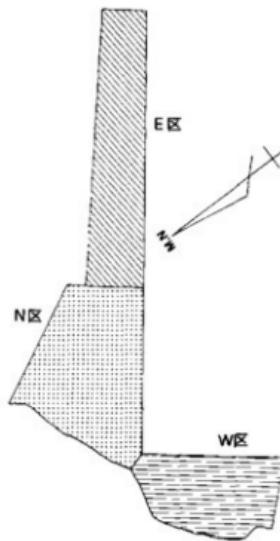
試掘調査は機械（バックホー）によりトレーナーを掘削し、断面を観察し、遺構と遺物包含層の存否を確認する方法で実施したが、88年-J・K・Lにおいて遺物及び遺物包含層を確認したので、本調査を実施することとした。

第2節 遺跡の概要

調査を実施した地点は、小字名では大根作りと呼ばれる地点であり、大久保B遺跡の南端にあたる地点である。現状は水田で、地表面のレベルは周囲の水田より、約50cmほど高く標高は2.2m前後を測る。

検出した遺構としては、流路を1条、溝を1条、柱穴を3基検出したほか農作物の株跡が多数検出された。出土遺物は、弥生後期から近世までのものが出土した。ただ近世の遺物が極端に少ないとから、当該地は中世以降に水田を造成するためにかなりの削平をうけているものと思われる。

なお調査に際して、調査地の地区割りを実施した。各地区的名称および地区割りについては第5図を参照願いたい。



第5図 大久保B遺跡89年-1区
調査地区割り図

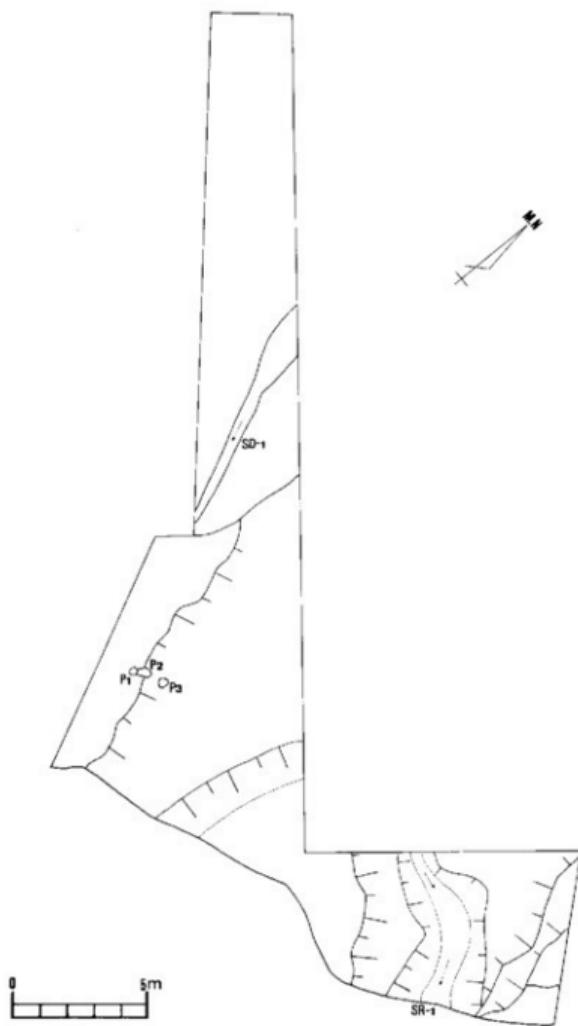
第3節 大久保B遺跡89年-1区の検出遺構

① S R - 1

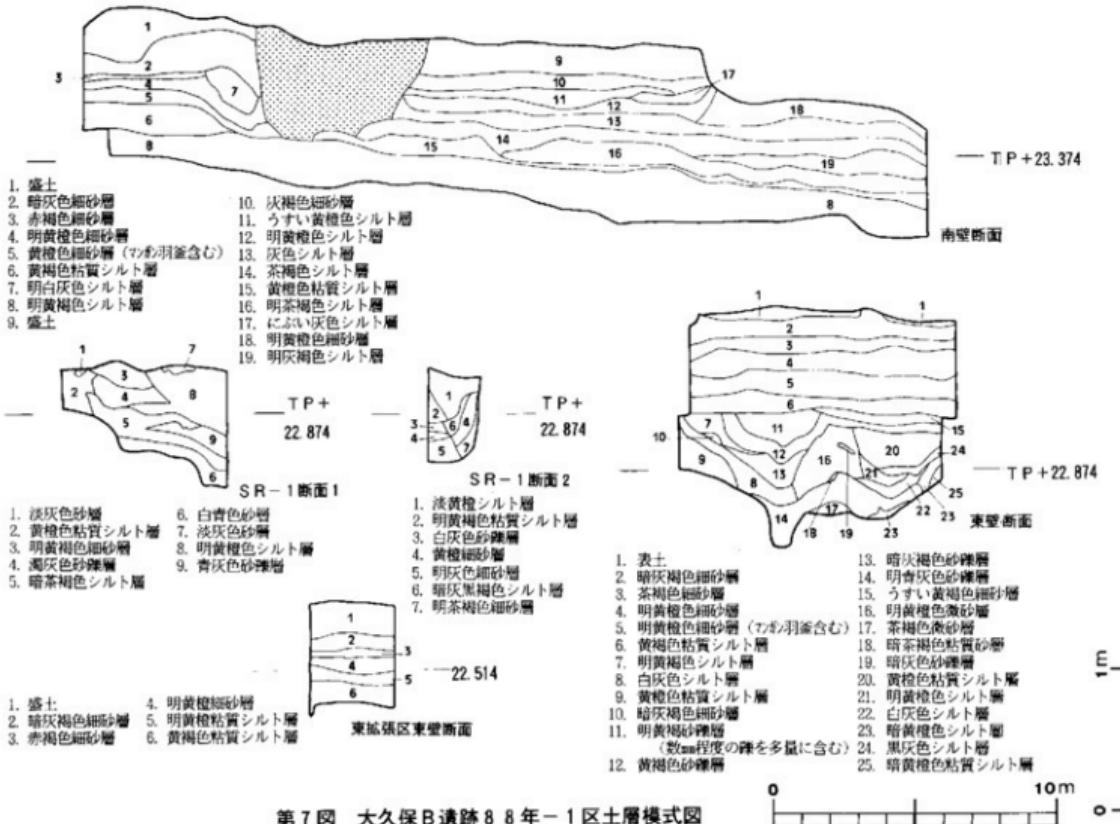
S R - 1は東から西に流れる流路で、旧河道と思われる。巾は7m前後を測り、深さは約1mを測る。遺構自体は人為的に埋積したようである。遺物としては弥生土器の甕と破片、それにサヌカイトの石鎌が一点出土している。

② P i t - 1

P i t - 1はE区で検出された柱穴で、直径は2.5cmを測り、深さは約4.0cmを測る。埋土は黄褐色粘質土である。遺物は出土していないが若干の炭が遺構内から出土している。



第6図 大久保B遺跡 88年-1区調査区平面図



第7図 大久保B遺跡 88年-1区土層模式図

③ Pit - 2

Pit - 2 は E 区で検出された柱穴で、直径は 25 cm を測り、深さは約 40 cm を測る。埋土は黄褐色粘質土である。遺物は出土していない。

④ Pit - 3

Pit - 3 は E 区で検出された柱穴で、直径は 25 cm を測り、深さは約 40 cm を測る。埋土は黄褐色粘質土である。遺物は出土していない。

⑤ SD - 1

SD - 1 は E 区で検出された近世の溝で、巾は 60 cm を測る。深さは 25 cm を測る。埋土は紫灰色粘質土である。遺物は染付の破片が少量出土した。

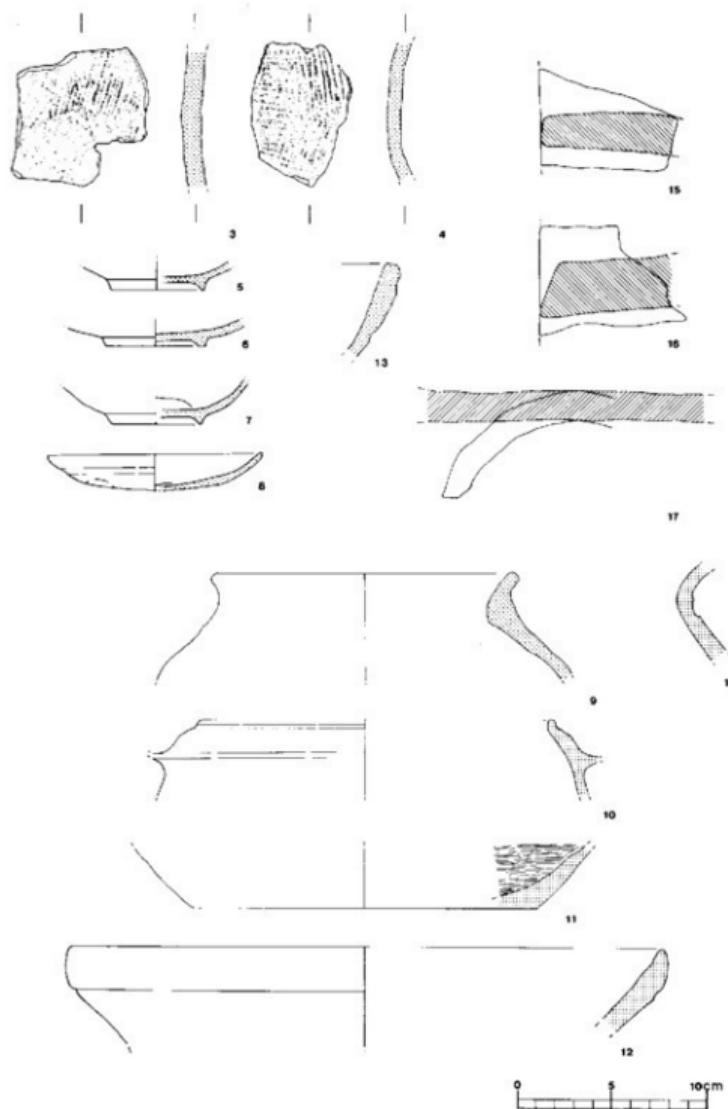
⑥ 農作物の株跡

E 区の東端より西側の SD - 1 までの間に、稲などの農作物を植えた跡と思われる跡がみられた。遺構の大きさとしては、一個体の直径が 3 cm 程度のものが 3 つくらいづつ集って一株を構成しているようである。時期的には中世以降と思われるが、この層からは、遺物が出土しておらず、年代は確定できなかった。

第 4 節 大久保 B 遺跡 88 年 - 1 区の出土遺物

① 包含層の出土遺物（第 8 図 3 ～ 14）

3 は瓦質の甕である。外面に刷毛目を施し、内面は指ナデを施してある。4 は須恵質の甕の破片で、外面に多方向への刷毛目を施し、内面は指ナデを施してある。青灰色を呈す。5・6・7・8 は瓦器塊ですべて破片である。5 は高台の断面が逆三角形を呈している。6 は高台の断面が台形である。7 は高台の断面が逆三角形を呈しており、みこみに螺旋状の暗文がみうけられる。8 は体部外面に一条ナデを施してあり、底部には指ナデを施してある。9 は土師器の甕の口縁部と頸部が残存した破片で、頸部に竈によるものとみられる調整痕があり、内面は丁寧に指おさえを施してある。10 は羽釜の口縁部の破片で、羽



第8図 大久保B遺跡88年-1区出土遺物(1)

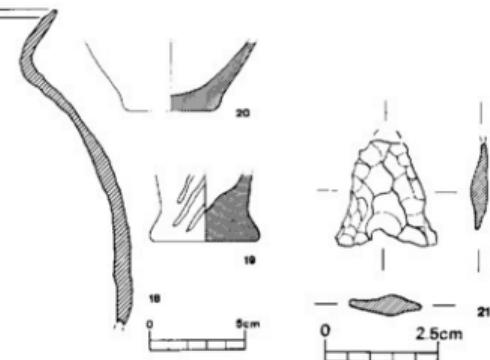
根部は欠損している。口縁外面にろくろ回転によるものと思われるヘラケズリの跡がみうけられる。11は土師質の鉢で、内面に一方向に向かって刷毛目が施されている。やや焼成があまいようである。12は須恵質のこねばちの口縁部であるが、おそらく東播系のものであろう。13は瓦質の鉢の口縁部とみられるが残存している部分が少ない。14は須恵質の甕の頭部である。頭部全体に施釉されており、非常に硬く焼きしめられている。15・16は一辺が残存する平瓦の破片で、厚さは15が約18mmで、16は26mmを測る。17は一辺が残存する丸瓦の破片で、厚さは約16mmを測る。出土した瓦はいずれも二次焼成を受けているらしく色調は赤橙色を呈し、やや軟質である。

② SR-1の出土遺物

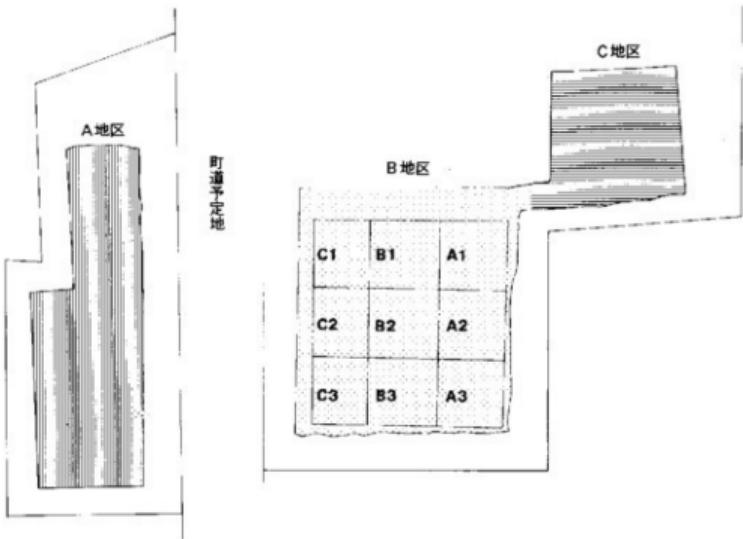
SR-1からは弥生土器とサヌカイトの石鎌のみが出上した。18は甕の体部の破片と思われ、外面に刷毛目が施されている。19は高杯の脚部と思われる。外面はケズリ若しくは、刷毛目による調整が施されていたものと思われる。また、底面は平らである。20は甕の底部とみられる。外面には火に掛けられたと思われる煤が付着しており、一部は白っぽく変色している。22はサヌカイト製の鎌である。両面の両側部に細部調整を施してある。先端部は欠損している。残存長は2.3cmを測り、厚さは4mmを測る。重さは1.41gを測る。



第9図 大久保B遺跡88年-1区出土遺物(2)



第10図 大久保B遺跡88年-1区出土遺物(3)



第11図 大久保B遺跡89年-1区調査地区割り図

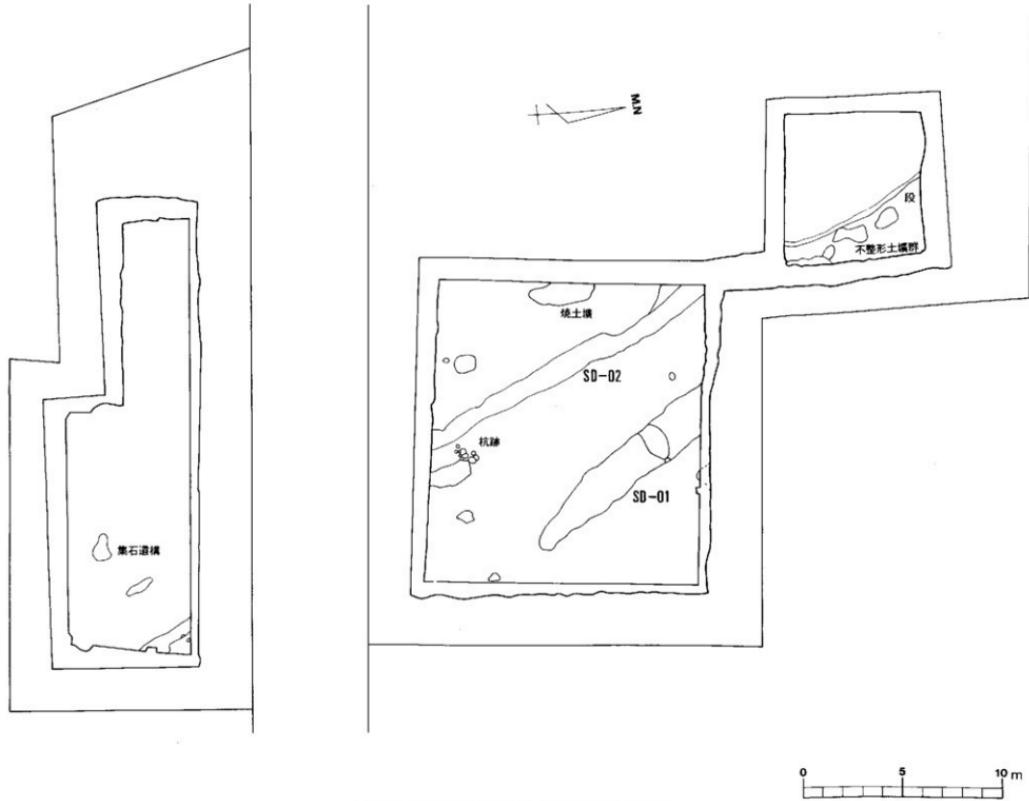
第3章 大久保B遺跡89年-1区の調査

第1節 調査の概要

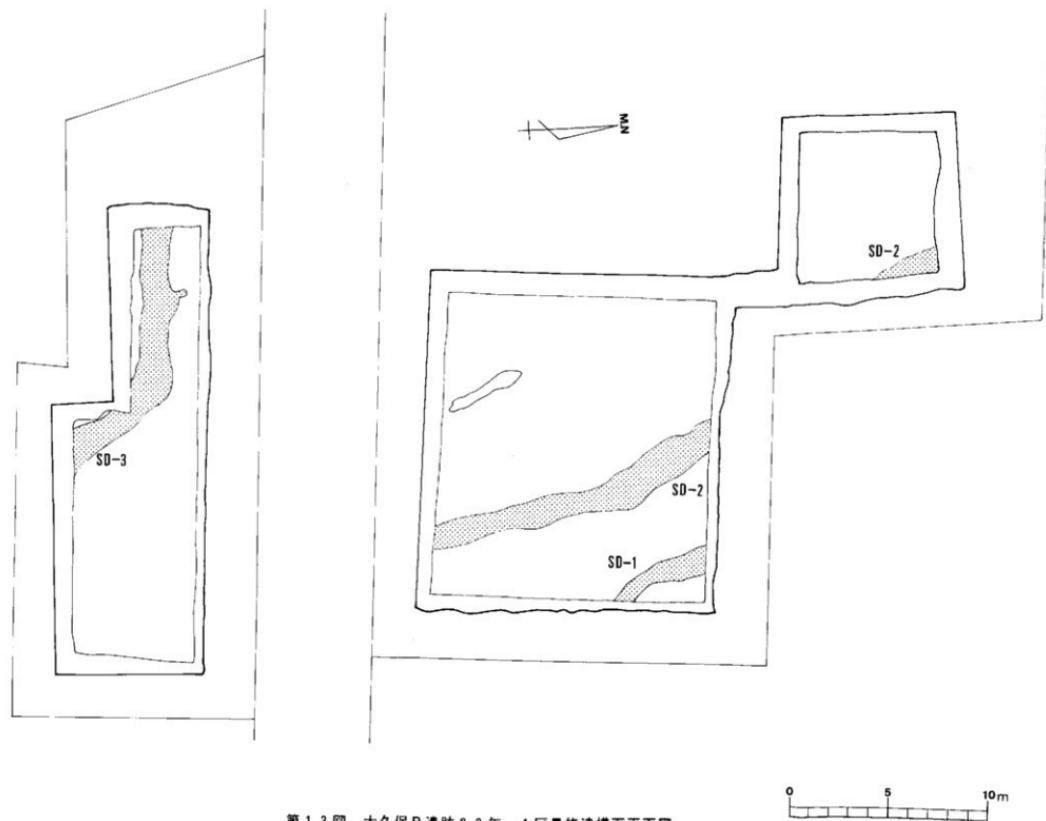
調査を実施した地点は小字名で鶴原と呼ばれる地点であり、大久保B遺跡の範囲の北西に位置する。調査地の現状はもと水田であったようであるが、現在は荒蕪地であり、現地表の標高はTP + 2.4m前後を測る。

調査は3ヵ所の調査区に分けて実施することとし、南側よりA地区・B地区・C地区と呼称することとした。また、B地区では5m四方の地区割りを実施し、南北方向はアルファベットによる地区名で呼称し、A・B・Cと表すこととした。東西方向は1・2・3と表し、各調査地区はA1・B2と表すこととした。

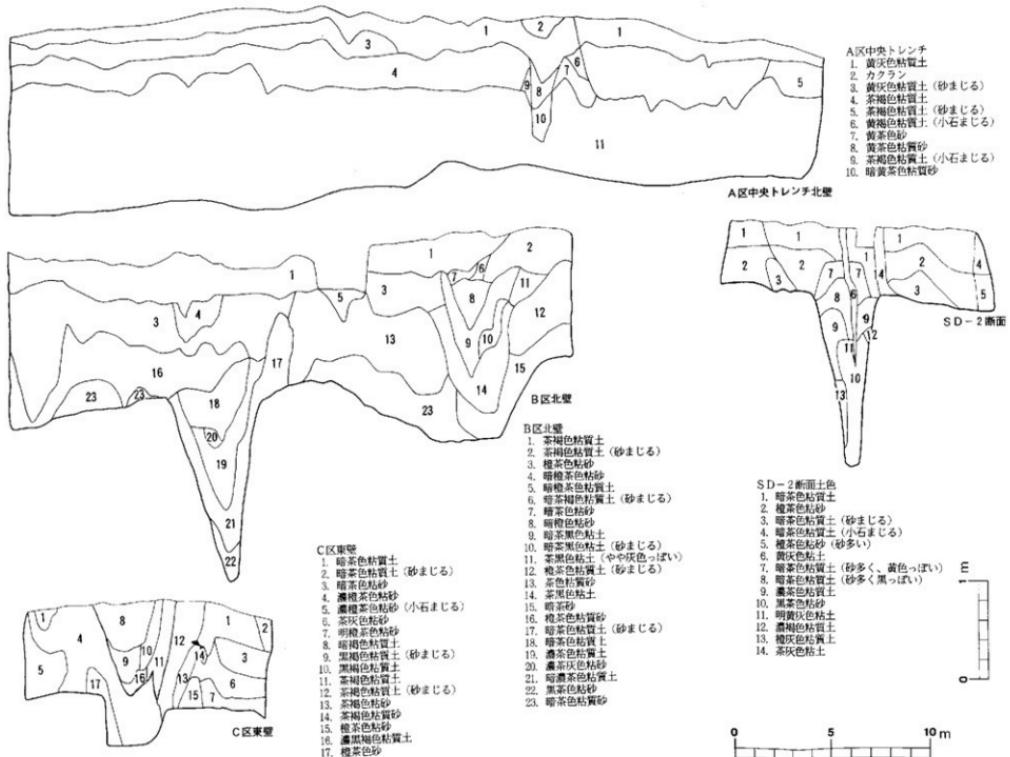
調査を実施した結果、溝・柱穴・杭穴・土壤・不整形土壤などの遺構を検出した。遺構の存在する面が複数に及び、弥生時代から近世までのさまざまな遺物を出土し、それらは当遺跡に存在する年代の幅を窺わせる。



第12図 大久保B遺跡89年－1区上層造橋平面図



第13図 大久保B遺跡89年-1区最終造構面平面図



第14図 大久保B遺跡89年-1区土層模式図

第2節 大久保B遺跡89年-1区B地区の検出遺構

B地区では複数の年代の遺構面が存在していたが、それらは大きく分けて3時期が想定できる。近世の水田などを主体とする上層遺構面、8世紀を上限とし、15世紀を下限とする下層遺構面、弥生後期の最終遺構面である。以下各遺構面について述べることとする。

① 上層遺構面

現在の表土（盛土）並びに旧耕作土・床土を除去すると、近世の遺構が検出された。検出されたのは溝が一条、杭穴・柱穴・鍵跡である。いずれも農業関連の遺構と思われる。溝は農業用水と思われ、杭穴は溝を補修若しくは保全する目的で杭を打ったものとみられる。また、鍵跡はほぼ南北方向に存在する。

② 下層遺構面

中世遺構での主な遺構は溝である。溝は北から南の方向へ流れている。溝は幅80cmを測り、深さ約45cmを測る。遺構覆土は黄褐色粘質土である。

③ 最終遺構面

最終遺構面での検出遺構は溝が二条に検出された。溝はいずれも北から南に流れしており、溝の断面はV字状を呈している。SD-1は幅1.2cmを測り、深さは約1mを測るSD-2は幅2mを測り、深さは1.2mを測る。遺構埋土は上層が暗黒褐色粘質砂で下層が黄褐色粘質砂であった。SD-1からは弥生土器の高杯の破片が出土しているが、2つの溝から出土した遺物はこれ一つのみであった。またSD-2は位置的に以前試掘を実施した86-Aトレーンチで検出された溝状とつながるものと想定される。

第3節 大久保B遺跡89年-1区A地区とC地区の検出遺構

① A地区の検出遺構

A地区では近世の遺構は検出されず、中世以前の遺構面が検出された。上層

では集積遺構・不整形土壌などが検出された。集積遺構では大きさが15cm前後の石が土壌内に詰められている。土壌は長軸1.5cmを測り、短軸は6.0cmを測る。石を除去した後の土壌の深さは2.0cmを測る。遺構埋土は暗灰褐色粘質土であった。また、下層ではSD-4を検出した。SD-4は幅1.5m以上を測り、深さは約7.0cmを測る。溝の時期は遺物が出土していないため不明である。

② C地区の検出遺構

C地区では土層の堆積状況などはB地区とほぼ同様の状況である。上層遺構面では不整形土壌群が検出された。下層遺構面では遺構は検出されなかったが須恵器の破片が一点出土している。最終遺構面では幅1m以上、深さ8.0cm以上を測る溝を一条検出したが、B地区で検出されたSD-2と同じ遺構埋土であることからSD-2につながるものと思われる。

第5節 大久保B遺跡89年-1区出土の遺物

大久保B遺跡89年-1区から出土した遺物はすべて破片で、コンテナにして約2箱半程の量であった。しかし弥生から近世に至るまでの幅広い時代からの出土がみられた。

大久保B遺跡89年-1区での主な出土遺物は弥生土器の甕、壺、高杯・サヌカイト製の石鏡及び未製品・須恵器・土師器・中世の瓦質土器・近世の染付などである。以下各時代の遺物について観察をおこなうこととする。

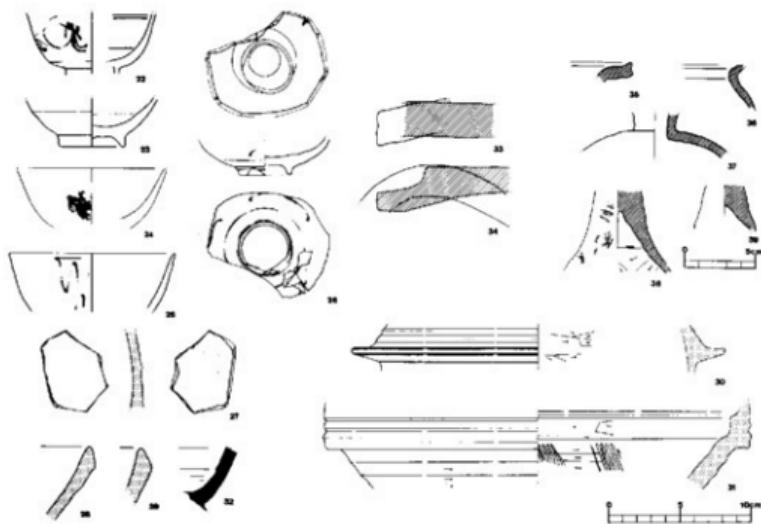
① 近世遺物（第15図22・23・24・25・26）

22～26はすべて伊万里焼の碗で23を除き染付である。22はやや薄手の碗で、外面に草花文を配し、内面は口縁に二条とみこみに一条の呉須による線をめぐらす。23はやや厚手で、外面の施釉はやや厚く、細かな自然貫入が見られる。高台底部には砂が多量に付着しているが、内面にはなにも付着していないし、かさね焼きの跡も見受けられない。24は外面に印判によるとみられる薦文を配しており、色調はやや緑っぽい白である。25は外面に網目文を

配しており、呉須が淡い。26は外面の模様は唐草文と思われる。内面には蛇の目に軸を搔き取った跡が見られ、高台糸きりの軸も搔き取られていることから重ね焼きによる製品であると思われる。

② 弥生以前の遺物（第15図27・28・29・30・31・32）

27は底地は確定できないが、陶質のすりばちである。外面にはヨコナデが見られ、内面には深く刷り日が刻みこまれている。やや薄手ではあるが、焼成は良好である。28・29は瓦質のすりばちである。両方とも摩滅がすすみ調整はよみとれない。また、焼成があまく軟である。胎土には最大2mm程度の石英粒を含む。30は瓦質の羽釜で、鍔部のみの残存である。鍔上面はヨコナデののち、指によるナデが施されている。また、内面には多方向へのナデが見られる。31は備前のすりばちである。内外面ともにロクロ調整のち細部を指によるナデが加えられている。焼成は堅緻で、胎土は密である。



第15図 大久保B遺跡89年-1区出土遺物(1)

32は須恵器であるが、品種については確定できない。外面は回転ヘラケズリのうちに回転ナデを施してあり、内面は回転ヘラケズリがなされているだけでナデは施されていない。焼成は堅緻で、胎土も良好である。

④ 出土瓦（第15図33・34）

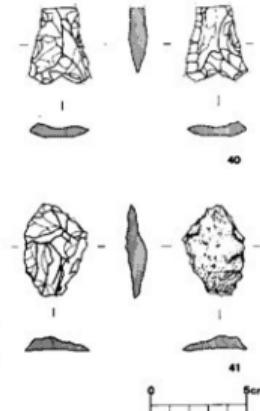
33は一边が残存する平瓦の破片である。平均厚は2.2cmを測る。焼成は二次焼成を受けているようである。34は端部が残存する丸瓦である。焼成は軟で、胎土は砂粒が混じる。

⑤ 弥生時代の遺物 弥生土器（第15図35・36・37・38・39）

35は甕の口縁の破片である。36は甕の頸部とみられる。37は高坏の脚部の付け根にあたる部分である。38・39は高坏脚部の破片である。39はSD-1から出土した。いずれの破片も砂層から出土しているためか、非常に脆く、調整などは判別できない。

⑥ 弥生時代の遺物 石器（第16図40・41）

40はサヌカイト製の石鎌である。残存長は2.7cm、厚さ4.5mm、重さは1.43gを測る。先端部分は欠損している。調整は粗い。41はサヌカイトの破片で、石鎌の未製品か工程における剝片であろう。長軸は2.3cmを測り、短軸は1.5cmを測る。厚みは4mmを測り、重さは1.16gを測る。



第4章 まとめ

本書では前述のとおり大久保B遺跡88年-1区と大久保B遺跡89年-1区の調査の調査結果について報告した。これら2ヶ所の調査で知り得たことと今後の課題についてすこしまとめておきたい。

第16図 大久保B遺跡
89年-1区出土遺物(2)

まず遺構については、大久保B遺跡88年-1区では近世の遺構面・中世の遺構面・弥生の遺構を検出することができた。また、大久保B遺跡89年-1区でも近世の遺構面・削平されている中世遺構面、時期不明の遺構面、弥生の遺構面を検出し、弥生時代の溝を検出した。

弥生の溝についてはその性格についての確定を避けるが、その形状や埋積状態からみても明らかに自然の流路とは異なり、掘削されたものであるといえる。そうした場合この溝の性格は『農耕地の灌漑』『住居などの区画』『外敵からの防衛』などが可能性として考えられるが、いずれにせよこの溝の掘削のために多くの労力の存在があることはみてとれる。この溝は溝を掘削した人々の生活上の行動範囲の中にあり、また生活上で必要なものとして掘削されたものであろう。このことから推測すると周辺での集落の存在の可能性も高く、今後は住居跡などの遺構が調査で検出される可能性は極めて高い。

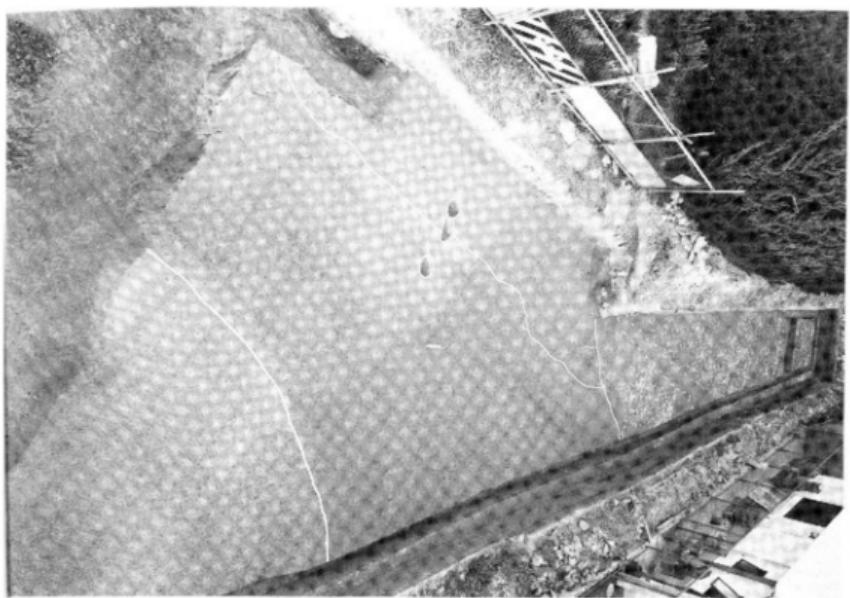
出土遺物については、弥生から近世までの時期の遺物が出土しているが、特に弥生時代の遺物については、石鎌・石鎌の未製品が出土しており、弥生土器も甕・壺・高杯などの器種が破片ではあるが確認できた。大久保B遺跡で出土している弥生土器については、そのいずれもが生活上の土器であり、貯蔵用の土器と供物用の土器などである。ただ出土しているものは破片のものが多く、摩滅もすんでいるものも多いため器種が判然としないものが殆どである。器種が判別できるものなどのプロポーションを見る限り、時期的には弥生時代後期のものと判断している。

大久保B遺跡は熊取町においては、現在発掘調査が実施されている唯一の弥生遺跡であり、中世以前についての歴史資料が僅少な熊取町にとっては、中世以前の歴史を知るうえでは有効で貴重な遺跡である。

最後に大久保B遺跡の調査は緒についたばかりで、まだまだ遺跡の性格や状態を語るには資料の蓄積が必要であり、時期尚早である。今後も更に調査を実施して、資料を蓄積し、住吉川流域で隣接する大久保D遺跡や泉佐野市所在の山出遺跡などとの比較検討が必要であると同時に、大久保B遺跡の保護・調査・活用について調査体制の整備と関係各位の協力が必要であることをつくくわけて終わりとしたい。

図 版

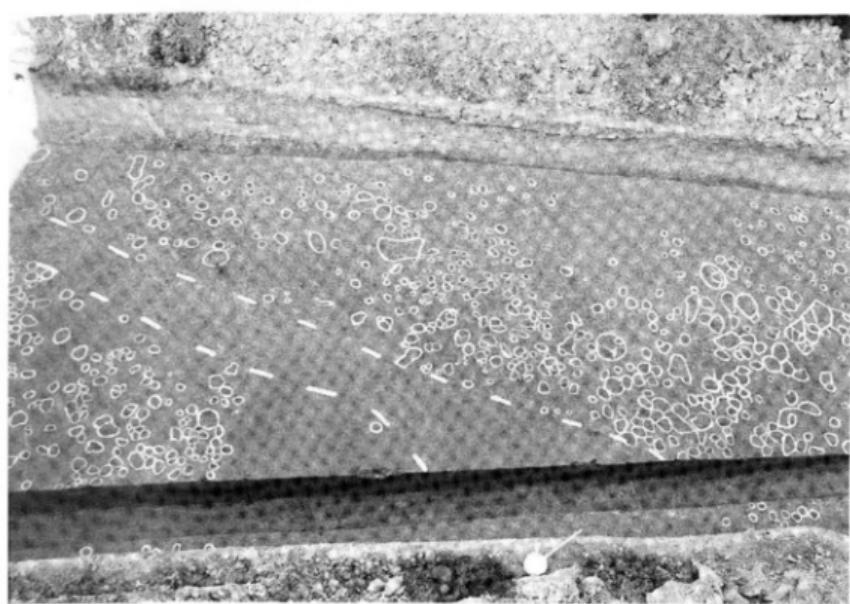
図版第一 大久保B遺跡88年一一区遺構検出状況



西から



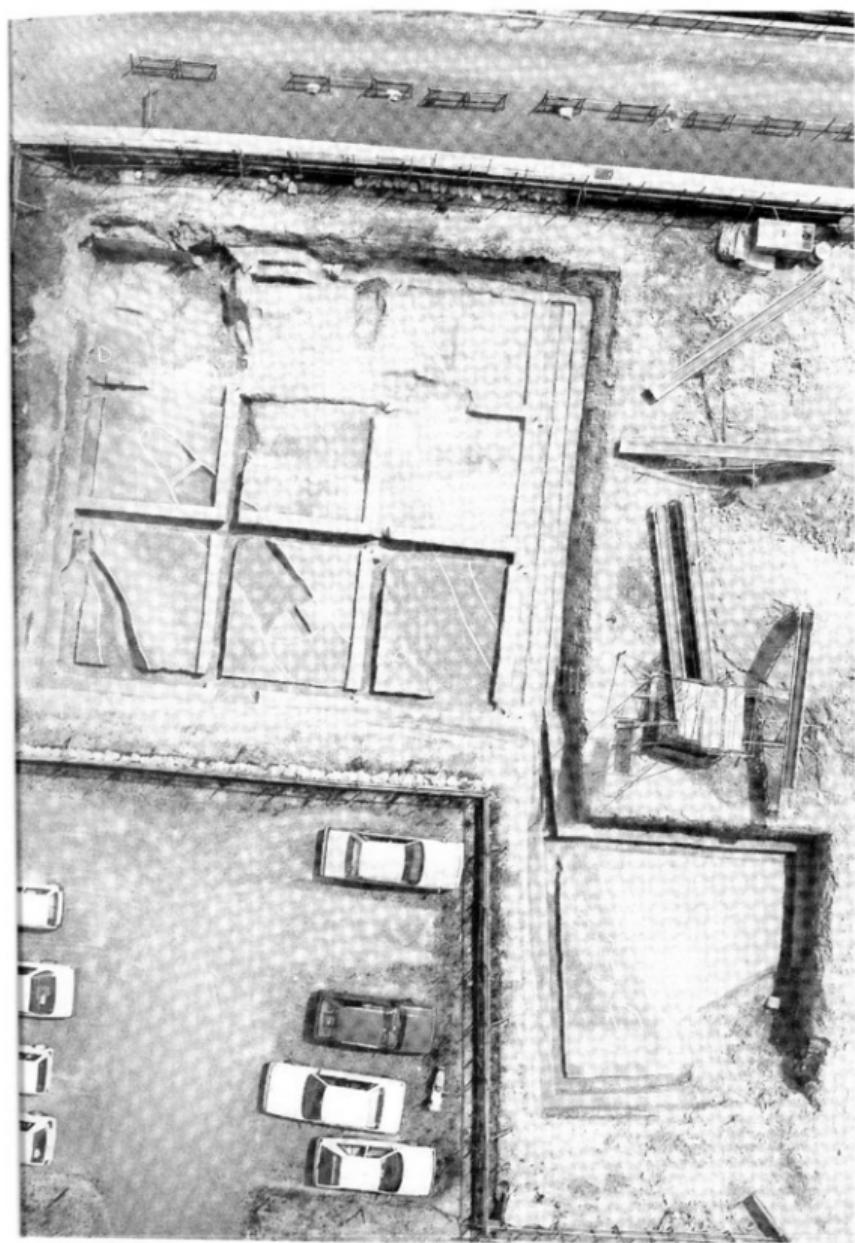
SR-1 検出状況



農作物跡及びSD-1

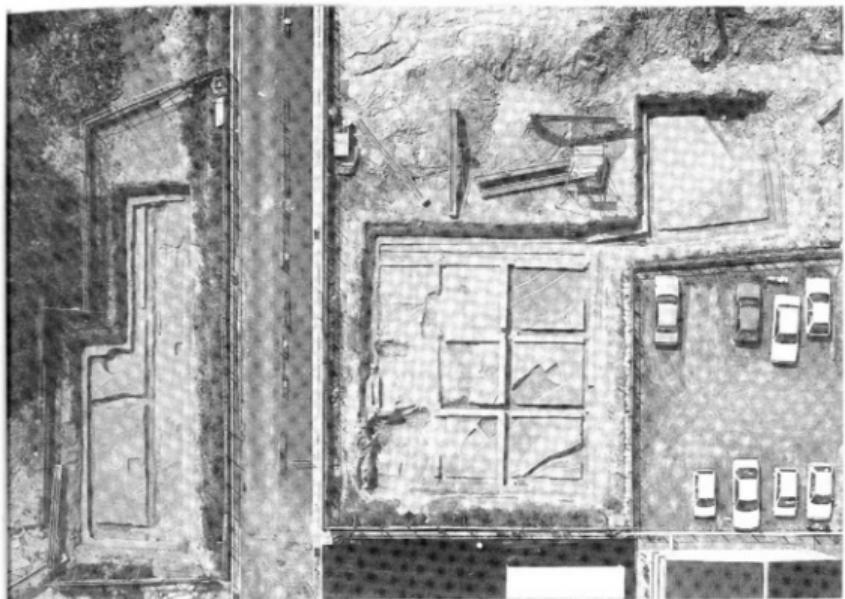


86-Aトレンチ出土遺物

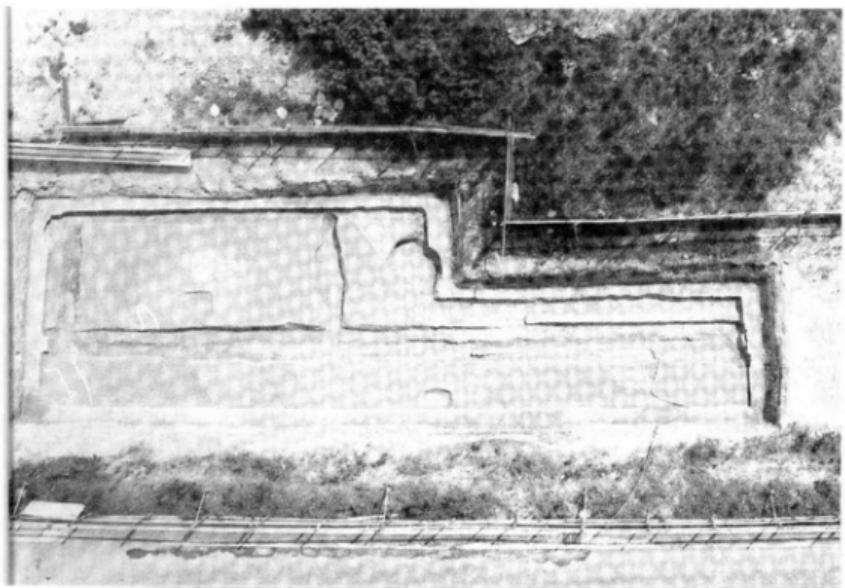


上が南

図版第四 大久保B遺跡89年—1区空中写真II

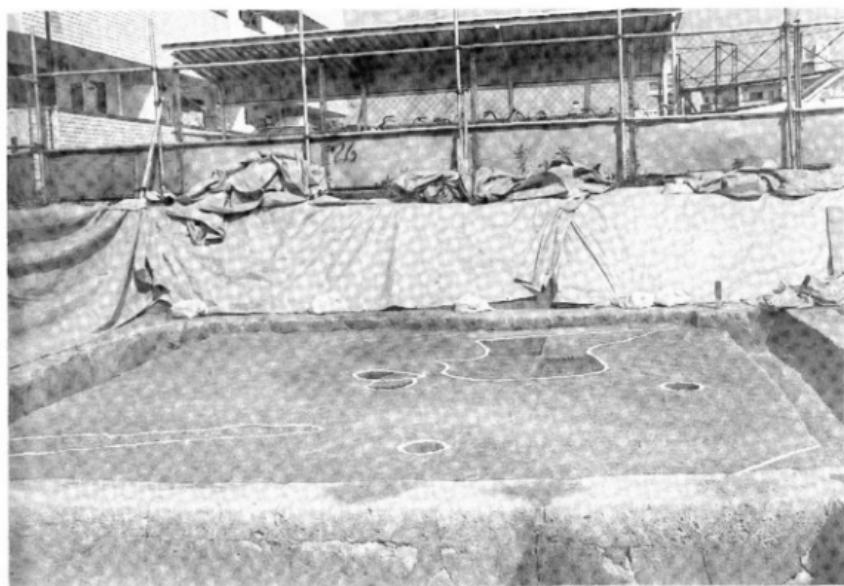


調査区全景

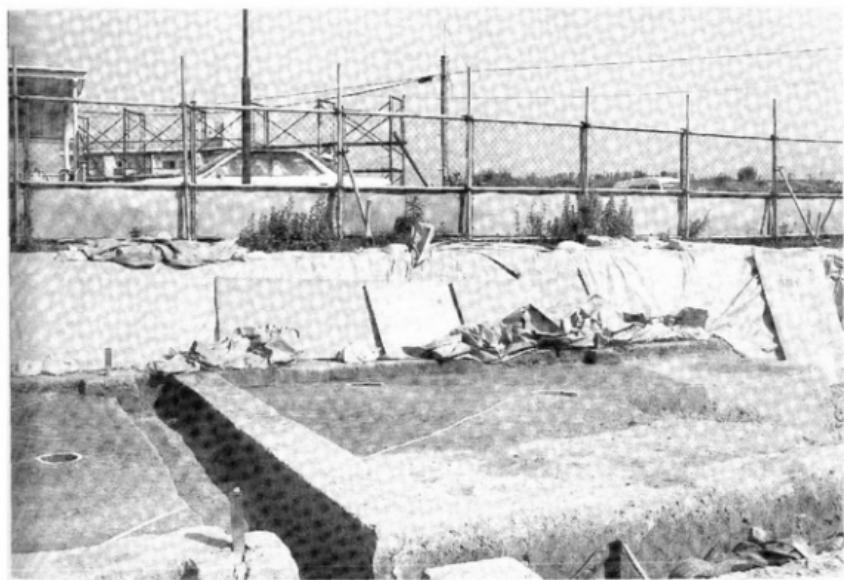


A地区

図版第五 大久保B遺跡89年一一区遺構検出状況



近世遺構 西から



西から

図版第六 大久保B遺跡89年—I区全景

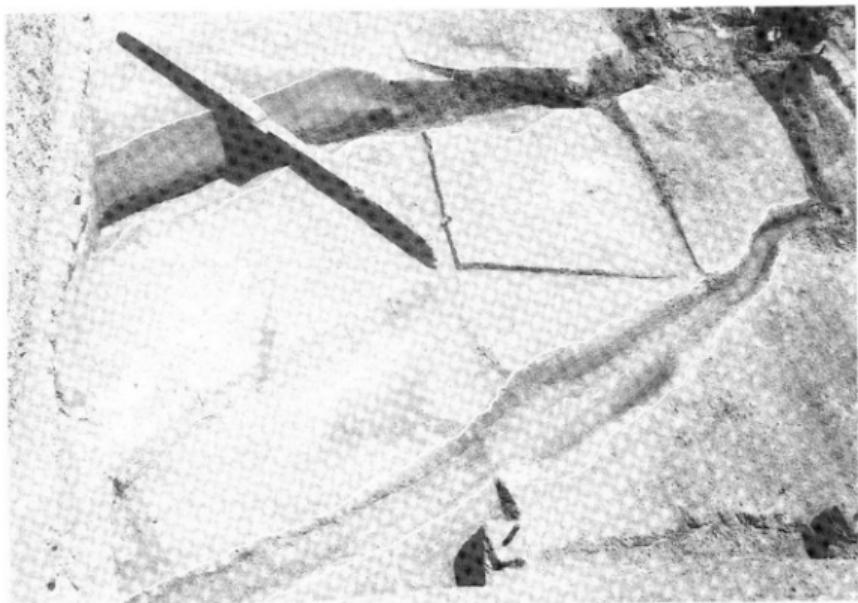


B地区下層遺構面 西から

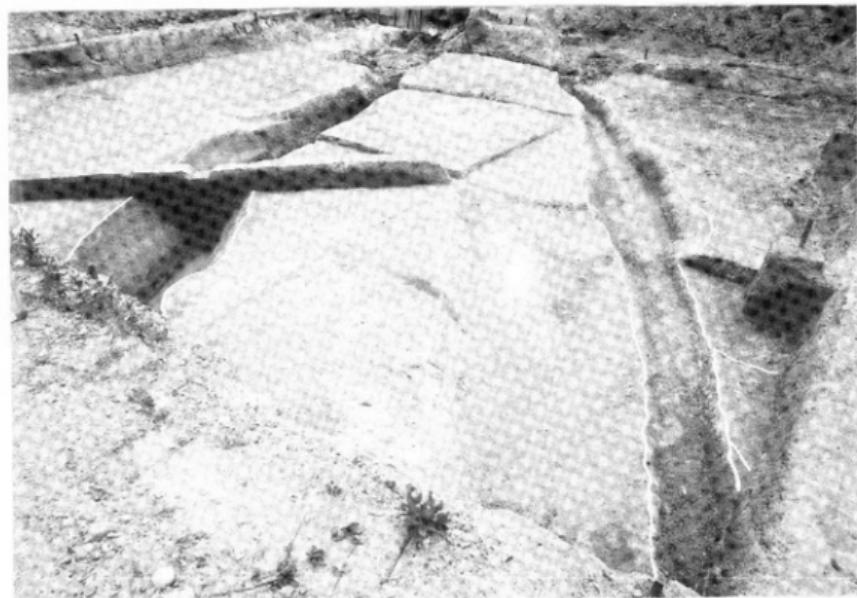


C地区下層遺構面南から

図版第七 大久保B遺跡89年—1区遺構検出状況II

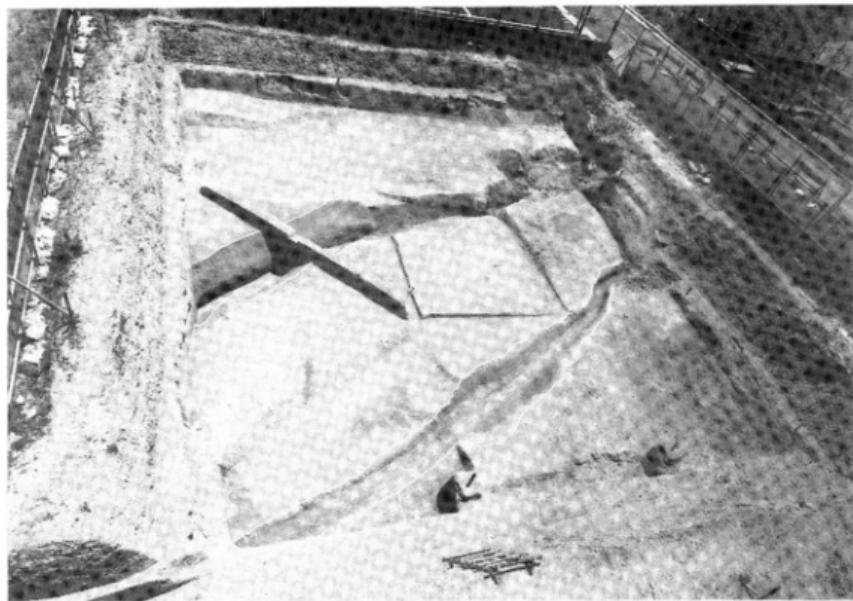


上がSD-2 手前がSD-02

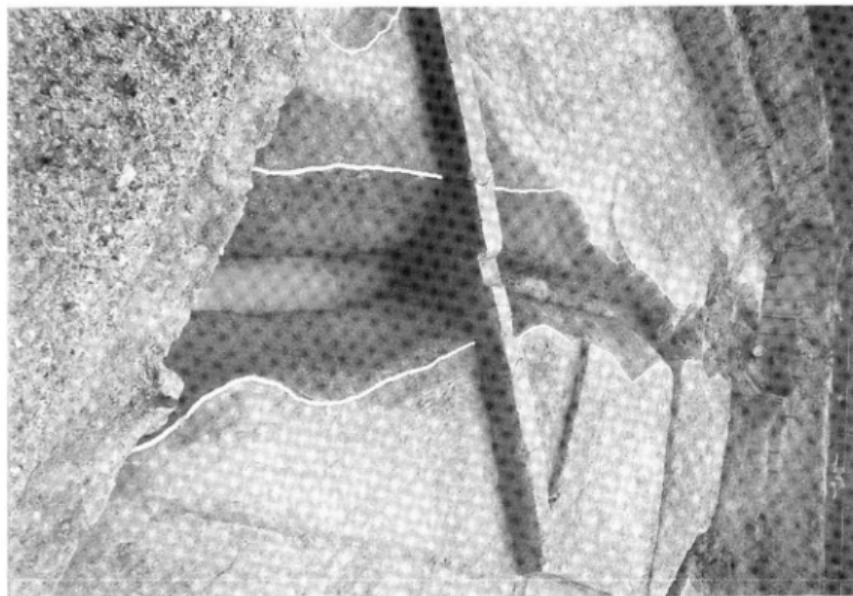


北から左がSD-2 右がSD-02

図版第八 大久保B遺跡89年—I区遺構検出状況III

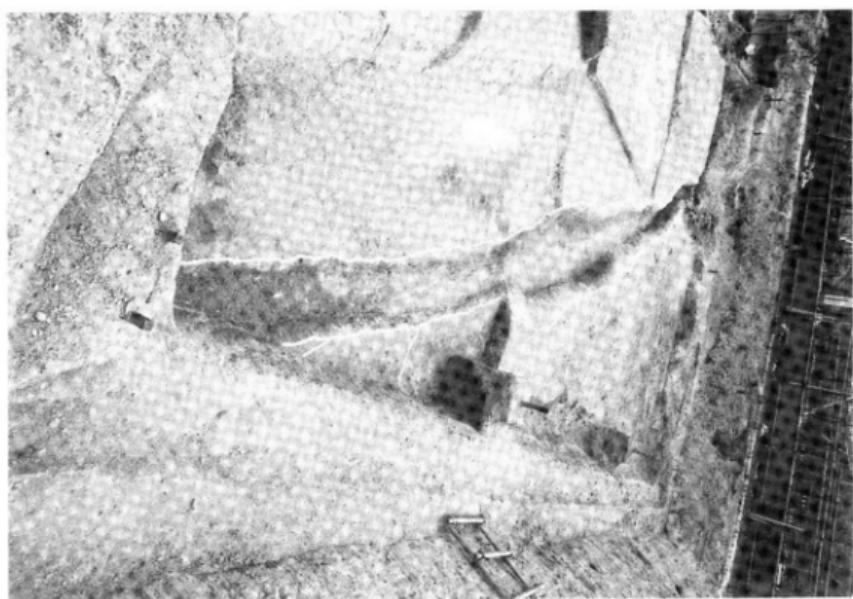


B地区全景



SD-2 北から

図版第九 大久保B遺跡89年-1区遺構検出状況IV・86Aトレンチ出土遺物



SD-02 北から

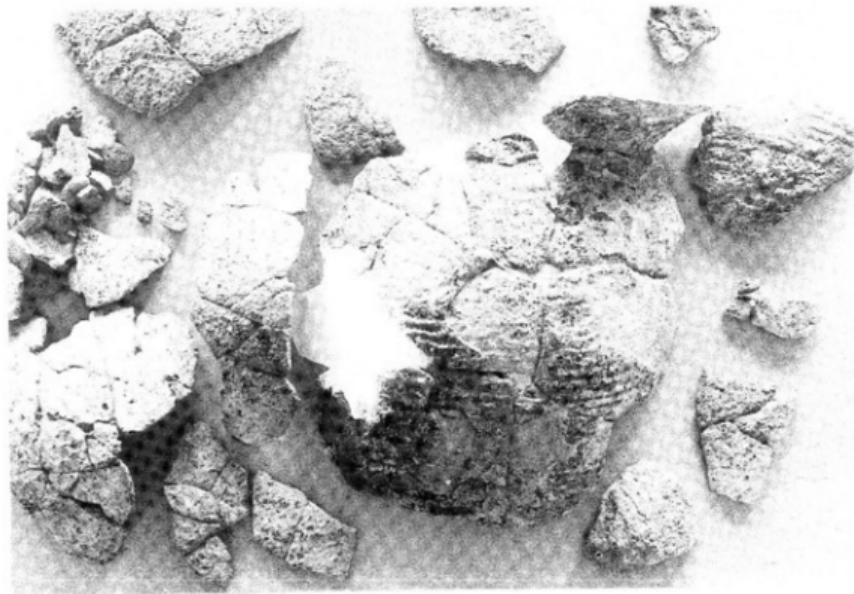


86-Aトレンチ出土 弥生土器片

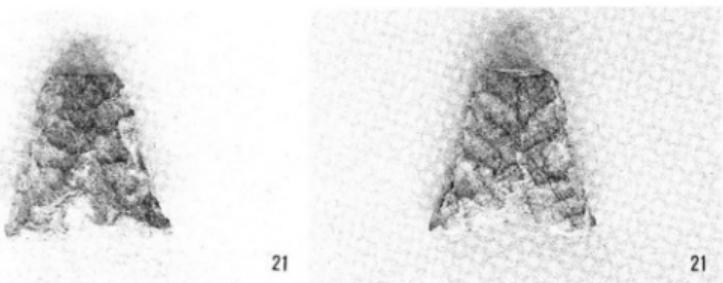


大久保B遺跡87年-1区(87-H)出土

昭和58年 表採遺物

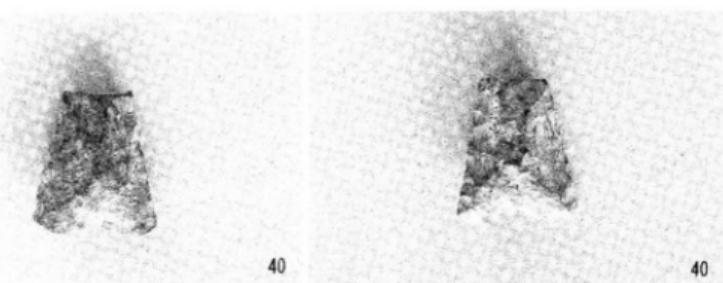


大久保B遺跡88年-1区 SR-1 出土遺物



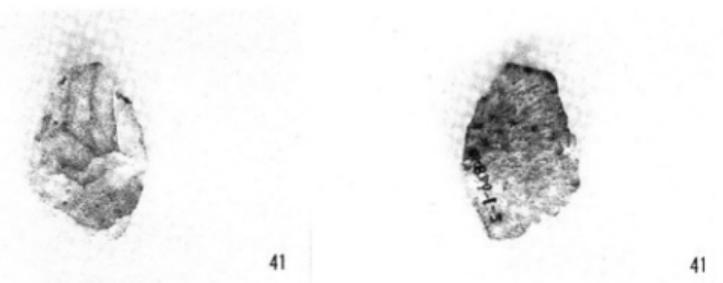
21

21



40

40



41

41

